奇妙の追憶

太田水穂

自分が師範学校を卒業したのは明治三十三年三月のことであった。赴任地は杉本市郊外の山辺組合尋常高等小学校であった。杉本市郊外とは里人両者の組合立であった。

本の事件の柳屋と云う古物屋の表の新生物に云った。赴任して凡そ一週間もたつかと思われる頃或日郵便と未知の人が部屋を明けて「太田居るかわ」呼びかけた。

「居ッ山辺に赴任したことを新聞で見たが、宿が分らなかった。僕は矢ッ張尋常とて」

とて上のひあった。自分は矢ッ張尋常とて俳句を作る文学があることを微かに考いてはそれが、その人が定型に而も率直な気軽な態度で後輩たる自分を尋ねて非常に嬉しく忽ち肝膽相照らすようとなった。

自分は呉れたので

互に情を移つやうなうれしさをしまった。師範を卒業したばかりであったが、在学中より教育